

第15号
平成2年
1990

会 報

にしきうら



高知県立須崎工業高等学校同窓会

目 次

母校創立五十周年

記念事業と協賛のお願い……………	同窓会会長 清 家 寛…………	1
ご 挨 拶……………	学校長 森 岡 清…………	2
学 校 近 況……………	教 頭 森 峯 雄…………	3
進路状況について……………	進路指導部長 西 川 哲 夫…………	4
(関東支部だより)……………	福 井 幸 正…………	5
(京滋支部だより) 近江の鮎ずし……………	広 瀬 理…………	6
(大阪支部だより) 陸船会……………	武 石 英 男…………	7
(高知支部だより)……………	中 西 安 男…………	8
(窪川支部だより) コメの自由化……………	藤 戸 進…………	9
造船クラブの活動について……………	山 崎 吉 広…………	10
会員名簿発行資金援助のお願い……………		11
創立五十周年記念協賛金のお願い……………		12
校 章……………		13
事務局だより……………	武 森 幸 利…………	14
平成元年度決算報告……………		15
平成2年度予算……………		15
同窓会について……………		16
終身会費納入者名追加分……………		18
消息不明者……………		19
会 則……………		25
各種証明書の発行について		
編 集 後 記		

表紙の写真は、30電気通信科卒、野並允温 氏（大阪支部）による提供
平成2年8月11日、総会時 須崎農協ホールにて



母校創立五十周年 記念事業と協賛のお願い

昭和18年機械二種卒業

同窓会会長 清 家 寛

同窓会の皆様お変わりありませんか、お伺い申し上げます。

母校は創立五十周年を来年に控え、準備が進められております。同窓会も協力してこの記念事業を、意義あるものにとしたいと、計画を進めてきました。

お蔭さまで、この度会報15号が刊行されました。

事務局の先生方並に各支部役員、有志の方々の御芳苦、御協力に對し深く感謝とお礼を申し上げます。

昨年の会報でご案内しました通り、本年八月十一日、本部総会が須崎市農協ホールで開かれました。

参加者は地元須崎地区を中心に県下全域に広がり、更に遠路大阪、関東支部からも多数参加下さり、また恩師諸先生方の御臨席を賜わり総数一五五名の参加を得、議事も順調に進行し、引続いての懇親会も盛大に行われました。

紙上をお借りして、総会開催に御尽力下さいました事務局の先生方はじめ各支部役員の方々、並に総会に御出席下さいました皆様に対し、心から感謝とお礼を申し上げます。

本総会の席上、立派に出来上りました校旗並に標旗の贈呈式も行われました。これ一重に校長先生はじめ母校諸先生方、事務局先生方並に各支部役員の方々の深い御理解、御協力の賜物でございまして心から感謝とお礼を申し上げます。

来年十一月には母校創立五十周年の記念式典が盛大に挙行される予定です。その概要につきましては森岡校長先生よりご説明下さいますのでよろしく願います。

母校の記念事業に協賛して、同窓会が推進しております事業の中で次の二つは出来上りました。

- 1、旧校舎跡地に記念碑の建立
- 2、校旗を新調して母校に進呈

今後に残されておりますことは、次の通りです。

- 1、同窓会員名簿の発行と協賛広告の募集
- 2、記念事業に対する協賛金のお願い
- 3、記念式典への参加

1、の会員名簿の発行につきましては、本部事務局で作業を進めて来ています。名簿の発行には、かなりの資金を要しますので、各企業や会員各位の事業のPRを兼ねました広告のご協賛をお願いすることになりました。広告料その他につきましては、別紙の通りです。各支部役員の方々並に有志の方々には、御足労かけますがよろしく願います。

尚、この名簿は予約注文制となっておりますので早目にお申し込み下さるようお願いいたします。

2、の記念事業に対する協賛金につきましては、本年五月二十六日の理事会に於いて次のように決定され、八月の総会でも承認されております。

五十周年記念事業は、誠に承知していただいておりますので、会員の皆さんの御賛同を願ひ、協賛金のご協力を願ひいたします。

協賛金は、一口、一、〇〇〇円とし、幾口でも結構です。御協力の程よろしく願ひいたします。

尚、協賛金の送金につきましては、本紙に挿入の振込用紙をご利用下さい。

3、の記念式典は、平成三年十一月二十二日に計画されております。このためたい式典には、私達会員も出来るだけ多く参加し、お祝いたいと思ひます。皆様には、お忙しい毎日と思いますが、早目にご予定下さるようお願いいたします。

終りに臨み、母校の益々の御発展と、会員の皆様方の御多幸を心からお祈り申し上げます。

尚、この名簿は予約注文制となっておりますので早目にお申し込み下さるようお願いいたします。





ご挨拶

昭和26年機械卒業
学校長 森岡 清

今年は、格別の暑さが続いて参りましたが、同窓会の皆様方におかれましては、いかがお過ごしでしょうか、お伺い申し上げます。

特に産業界はこの所活況を呈し、企業の現場で活躍の皆様方は、大変なご多忙の毎日のこととお察し申し上げます。

どうかお身体ご自愛の上、ご活躍のほどお祈り申し上げます。

さて、今年は五月に関東支部の総会にお招きを受けまして出席させていただきました。実は関東支部につきましては、これまで機会がなく、一度は思っていたところでしたので、皆様のお元気で活躍の様子を目のあたりに拝見し、大変嬉しく、また力強く思いました。特に同窓生や、古い顔なじみの皆様との本当に久しぶりの再会は、何物にも代え難い感激でした。

今年は、近畿支部の総会も予定されていまして、またそちらの支部の皆様にもお会いできることを、楽しみにいたしております。

八月には、本部の同窓会総会が行われました。

こちらでも恩師の先生方や、関東、近畿からの先輩方をお迎えし、大変な盛況で、その席上学校へ立派な「校旗」及び二振りの「標旗」の贈呈がありました。

て、心からお礼を申し上げます。また、大切に、末長く使わせていただきます。

本部総会につきましては別稿で報告がありますのでご覧下さい。

さて次に、いよいよ本校創立五十周年記念式典が目前に近づいてまいりました。

今の予定では、周囲の状況も考慮しまして、式典を来年、平成三年十一月二十二日（金）に挙行するように計画を進めています。

当日の日程案は次の通りです。

式典 午前十時より同十一時三十分

於・本校体育館

式次第

校歌斉唱

主催者挨拶

実行委員長

式 辞

同窓会長 清家 寛

高知県教育委員会挨拶
祝 辞 高知県知事 学校長

高知県議会議長

須崎市長

高知県高等学校長代表

来賓紹介

顕 賞

功労者・二十年勤続恩師

生徒代表謝辞

閉式の辞

祝賀会 午後一時より同三時三十分

於・須崎市農協会館（予定）

会次第

開式の辞

主催者挨拶 副実行委員長

P.T.A会長

祝辞・乾杯

開 宴

終宴・乾杯

閉式の辞

以上が記念式典および祝賀会の大要でございます。当日は、高知および幡多両地区に、ご来賓用として、送迎バスを運行する予定ですので、同窓会の皆様方も、ぜひご利用になりお越しくださいますようお願いいたしております。

また、刊行物として、二百頁程度の五十周年記念誌と、式典出席者及び同窓会で作成を予定しています同窓会名簿の購入者に配付予定の学校概要（十二頁程度・総カラー写真印刷・本校最新の状況を収録A4版）を作成することになっています。

記念誌は、本校の歴史と思い出話を中心に編集の予定で、こちらからも各年代別に寄稿をお願いしますが、色々の思いをお持ちの方々の投稿をお待ちしています。

これらの記念行事につきましては、同窓会並びにP.T.Aから経費の全額をご援助いただき、お陰で立派な式典を計画できますことを、有り難く、心から厚く御礼申し上げます。十分に吟味し、最も有効に活用させていただきたいと存じています。

五十周年記念行事が、皆様方のご期待にも添えますように学校を挙げて取り組みをさせていただきたいと考えていますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

学校近況

昭和27年機械卒業
教頭 森 峯 雄



同窓会の皆様方には、お変わりなくご清祥で、この一年間をお過ごしになりましたこととお慶び申し上げます。

本校も、明年は五十周年の慶時となる歴史をもつに至りました。今回は、この時点を控えての報告になります。

今春の卒業生は、機械科七八名、造船科三二名、化学工業科二八名（女子一名）、電気科六七名、計二〇五名、工業学校分三二〇名を加えて卒業生総数七二五一名（女子五三名）となり、久しぶりに女子卒業生の増加がありました。そして今春もまた、ほとんど全員が希望の進路に向って巣立つことができました。お力添えに心からお礼申し上げます。

新入生では、機械科八十名、造船科四一名、化学工業科三八名、電気科六八名、計二二七名を迎えました。

校内の雰囲気も、落着きと同時に、諸活動参加の質も高まってきた、資格取得の取り組みも盛んになりました。既設のMC（マシンングセンター）、NC（数値制御工作機械）、コンピュータ関係機器、新図書館、会議室等の設備に加え、アルミ船舶工作を射程においてのプラズマカッター等の導入により先導的な躍動の息吹も感じる昨今です。

特活関係では、造船クラブが、長年継続して研究し実績を挙げていることで全国工業高等学校長協会より表彰されました。またソフトボール部が県春季大会で優勝し、四国大会に出場して優勝を果し、空手道部が県夏季大会で、個人第一位を獲得しました。ヨット部は、創部して三年目ですが、国体に出場し青少年スナイプの部では四十七県の歴史ある強豪に挑み三十一位の成績を挙げたことは讃えるに価します。

人事ですが、島崎良一先生、中山正彦先生が停年退職されました。島崎先生は、本校のご出身で、ほとんどを本校機械科で勤務されて、実習を担当される中で、同窓会の事務局長として長年お世話下さいまして、今日の確固たる礎を築いて下さいました。先生は、ご誠実なお人柄によって私共をご薫陶下さいました。中山先生は、十三年間電気科に勤務され、進路部長として、心のこもる生徒のお世話を下さいました。夏休み中、部室前の中庭の手入れをして下さったことなど忘れ得ません。なお、お二人の先生方には本年度も時間的なご指導をいただいています。また、岡田正子、松本留美子、川窪馨先生他、長年ご勤務いただいた先生方が転勤されました。ご労苦に深く感謝し、ご多幸、ご活躍をご祈念申し上げます。

以下、人事異動をご紹介します。

〔転任〕

〔着任〕

松本留美子(国)窪川高
山崎 加恵(〃)

森下 英貞(国)中 村
松浦真知子(〃)期 講

今田 充(社)
深瀬 出男(理)北 高
中山 良明(英)市 商
豊永 純一(体)高 岡
安岡 正晃(〃)
三宮 哲明(機)高知工
川窪 馨(電)宿毛工
岡田 正子(事)須崎高
中城 加代(〃)窪川高
藤村 幸紀(理)新 採
池内 志保(英)期 講
柴田 文雄(体)追手前
竹村 真(美)新 採
井上 耿介(機)高知工
谷口 正則(〃)
西森 昌身(電) 〃
中山 護邦(〃) 〃
大妻 紀俱(事)伊野商
青木 晴代(〃)若草養
以上、新進の教職員を加えまして、心を新たに努力を致しておりますので、ますますのご指導、ご援助をお願い申し上げます。
皆様のご多幸を心からお祈りしまして報告をさせていただきます。



開校記念日講演

大阪支部長 山田 豊 氏



進路状況について

進路指導部長
(機械科教諭)
西川 哲夫

卒業生の皆様方、ご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。

常々後輩の就職等について御指導御支援を頂きまして、心よりお礼申し上げます。

本年度も就職試験の解禁となり、就職希望者(188名)が増えています。そこで進路状況を報告します。

昭和40年代の高度成長期時代から、オイルショック、ドルショック、円高不況と高低の差が大きい求人状況が続きましたが、内需拡大を基調とする景気の回復、各企業の設備投資と新卒採用の高まりで、63年頃より求人数が増加に転じております。

本年度につきましては、先輩諸氏や企業の来校により生徒の希望にそった就職を心掛け、各企業の仕事内容を中心に話を進めてまいりましたが、先輩の方々よりの電話での御指導や来校しての企業内容の説明等、指導をたまわり、延べ700社の来校をいただき、生徒達は希望している職種を考え、受験企業を決定し受験した者、これから受験する者等々ですが、順調に内定者が増えております。

先輩の方々に本年度もお世話になる者、又は、はからずとも希望職種が異なり希望者の出なかった企業もあ

りますが、毎年対称の生徒が異なり、希望職種も異なりますので今後共ご支援をお願いいたします。

今後は中東情勢の変化、内需拡大の変更等求人状況に不安材料は数多く有りますが私共教職員一同、一丸となって頑張り努力する所存でございますので一層のご指導ご支援をお願いいたします。

次表は最近3ヶ年の求人進路状況、地区別就職先人数、本年度の進路希望状況を掲げてありますのでご参考にして下さい。

平成2年度 3年生進路希望状況

科 別	生徒数	進 学 希望者	就 職 希 望 者		その他
			県 内	県 外	
機 械	70	11	29	30	0
造 船	27	1	2	24	0
化 工	35(3)	3	16(2)	16(1)	0
電 気	74(1)	3	28(1)	43	0
計	206	18	75(3)	113(1)	0
			180(4)		

() 内数字は女子

過去3年間の進路状況

年 度	生徒数	進 学	就 職		その他
			県 内	県 外	
62	165	27	52	73	13
63	209	25	70	113	1
平成元年	205	24	76	100	5

地区別就職先人数

年 度	62	63	元
県 内	63	70	76
中・四国	7	24	36
大 阪	37	28	26
関 西	3	11	8
東 海	18	15	13
関 東	28	35	16

本年度並びに過去2年間の求人状況(会社数)

年度	大阪	関西	東海	関東	中・四国	県外5地域 合計	県内	計
62	123	116	69	208	47	563	123	686
平成元年	162	164	106	312	89	833	136	969
2年	204	194	167	448	124	1,137	140	1,277

平成2年の求人は、10月1日現在のものである。

▷ 関東支部だより ◁

昭和34年機械幸樂

福井 幸正

少しずつ秋らしくなりましたが、須工同窓生の皆様には変わりないと思います。さる六月二日に須工関東支部同窓会が行われました。

全国高等学校校長会議に出席のため上京されました森岡校長先生及び同窓会事務局、高知支部長さんも出席いただき、又、多額のご寄付をいただき誠に有難うございました。

同窓会会場は、横浜市の中央にある中華街（正華楼）に百名（出席予定者一二三名）が集まり盛大に行われました。森岡校長先生のご挨拶及び須工の近況報告後、各支部長さん等の挨拶もあり各支部の様子も報告されております。

それぞれテーブルを囲み、近況報告や昔話に花を咲かせている様子がうかがえました。

会場の準備等があったため野瀬先輩（T31）、今回の幹事である梅下氏（M38）と私が早めに会場に入りましたが、時間前になるとどくどくと同窓生が集まり、出席者名簿のチェック、名札の受渡し、会費の集金におおわらわでした。まず手間だったのは顔と名前が一致しないこと、又、久しぶりに聞く土佐弁、頭に多少白い物の見えはじめた同期生にも会え大変楽しい同窓会でありました。

私的な話題ですが、厳冬の国ソ連での体験を報告いたします。某フィルム会社（三菱商事経由）スライピッチ企業合同（ソ連）に納入したプラントのス

タートアップのためソ連に出張しました。ソ連邦は大小一二六の民族を合わせた一五の共和国、二〇の自治共和国からなる多民族国家で、面積約二四〇万K²m（日本の約六〇倍）、人口約二億六六六〇万人です。私達のサイトは、ヤロスラブリ州、ペレスラブリ市で、モスクワの北東一四〇kmのところにあり、ロシア海軍（ピョートル一世）発祥の地でもあります。私が赴任した時はスーパーバイザー八名、通約二名で、住居はマイクロライオン（約80棟）団地の一角にある五階建アパートに3LDKの部屋を与えられていました。それぞれの部屋に二―三名入る共同生活で、ベット、机、洋服ダンス、応接セット、大型カラーテレビ付であります。食事は休日以外は朝食だけ自炊、昼食と夕食は工場内にあるレストラン利用、休日は全て自炊です。冬は部屋の温度も20度に保たれているので快適です。水、温水の給水時間は午前、午後とも六時―十時頃までのためバケツに水の汲みおきが必要です。停電も度々あり外でパトライトを点滅させた車が走り廻る時は、灯火管制訓練日のようなです。私達のアパートにはジェジュールナヤ（鍵番のオバさん）がいないのでロシア人の出入が自由です。何かと理由をつけて、私達と顔見知りになりたくてドアをノックするロシア人の男には閉口します。玄関のドアにはマグネットセンサーがセットしてありますが目的がはっきりしません。ある者は私達の出入をチェックしているか、空巢防止用だとも言っているのです……。

出張期間中ロシアの冬を二回体験しました。一回目はヨーロッパ全体が大寒波でマイナス40度を記録

し、アパートの暖房も効果なく、二重窓に梱包材料のアルミを内張り寒さを凌ぎました。娘さん達のまっけが真白く凍りつき、二重窓の内側のガラスが完全に氷結します。涙が凍り始めるのか目の中に異物でも入ったような感じがします。二回目の冬はマイナス25度まで二回は達しましたが、ロシア人は暖冬だと言います。ゴルバチョフの「節酒令」は酒の値段を2―3倍につりあげました。以前は酒屋に並んでいた酒は全て姿を消し密造酒を多く造らせるような状態になりました。レストランも日曜、月曜、金曜は酒は出ません。ビールの売り出し日は広口のビンを持った大男が長蛇の列をつくりまわす。一人一回広口ビン（3と）一杯、もう一杯望むなら列の最後につかなくてはなりません。

建設中の工場は4mもある二重の板塀に囲まれている、板塀のところどころに監視塔があります。これは建設労働者が不足しているらしく囚人労働者を使うためです。囚人達と一緒に働くことはありませんが、私達が午前中働く場合は、囚人達は午後働き、私達は工場正門近くにある仮事務所へ退避する状態です。それは、工期が長くなった原因の一つかも知れません。

建設業者（据付、電気計装、建築）は作業終了後の後片づけはしません。発注者側が行うシステムになっていきます。現場は足の踏み場がないほど乱雑です。建設関係労働者に女性が多いのが目立ちます。

ともあれ二十五年前にタイムスリップしたような国でありましたが、ロシア人はみな極めて親日的でありました。

▷京滋支部だより◁

近江の鮒ずし

昭和21年機械一種卒業

広瀬 理

今年のはじめ同窓会本部よりコンピュータで打ち出された同窓生名簿の京滋地区分が送られてきた。その名簿を見ながら滋賀県に居住される人が多くなりつゝあると驚いた。かく言う私も京都府内に住んでいるが京都の会社を停年退職後滋賀県に通勤している身であり、表題のような近江にまつわる題目を掲げさせてもらった。鮒ずしの話に入る前に先の名簿よりまとめた数字を見てもらう。

①卒業年代別分布

卒年代	地区	京都	滋賀
昭 20		8名	3名
" 30		15	6
" 40		16	11
" 50		0	4
" 60		9	12
平成			
合 計		48名	36名

②学科別分布

学科	地区	京都	滋賀
機 械		23名	16名
造 船		4	2
電 通		5	2
電 気		7	8
化 工		9	8
合 計		48名	36名

このように数字を並べてみると40年代卒までは京都に居られる同窓生が多いが、50年代卒以降では滋賀県在住の方が多くなっている。また学科別に見ると学科の開設の早かった機械科卒が多いのは当然として、あとから開設された化学工業科の卒業生が多いのが注目される。これらは近年になって急速に

滋賀県に工場が進出してきたことに関係がありそうである。

さて表題の鮒ずしを通じて滋賀の一端にふれていただくことにしよう。

「鮒ずし」は日本の「すし」の原形ともいわれ、非常に古い歴史をもっており、平安時代に施行された諸制度の編集書「延喜式」にもその記録があり、当時から「鮒ずし」が宮中に貢納されていたことが知られています。

鮒ずしに使う鮒は春三月から五月ごろ琵琶湖で捕れる卵が一杯詰ったマブナが最高とされ、清い水に棲んでいることが第一の条件と言われている。その加工方法は、鮒のえらから細長い曲がった針金を突っ込み卵だけを残して、胆のうを潰さないように素早く内臓を抜き取る「筒抜き法」と呼ばれる独自の

方法で下処理したものを、一ヶ月以上塩漬けにして水抜きをし、漬かり具合を見計らって、上質米とモチ米の混合ご飯と共に樽に漬け込み、重石をして自然発酵させ、約半年ほどして食卓に上るようになるそうです。食べ方は漬け込んだご飯と一緒に薄く切った酒の肴に、またご飯のおかずにと、好みに応じ多様なようです。昔は各家庭で、それぞれ持ち味を生かした漬け込みで自家製の鮒ずしを作ったようですが、食生活の豊富になった今日、どうしてもこのような手の込んだ保存食は日常生活より遠ざかりつゝあるようです。それでも滋賀に住んでいれば一度や二度は「鮒ずしじゃ一回食べてみ」とすゝめられるはずである。保存食になれてない土佐人にはあの発酵保存食に独特の臭みを口に入れるには一種の決心

が要る。しかし口に入れてしまえばたしかに奥の深い味が残り、これがやみつきになると言う味かと思いが当るところがある。

このような伝統保存食に不安の影を投げかけているのが琵琶湖の水質汚染問題である。現在の琵琶湖の南半分で取れる鮒はもはや鮒ずしには使えず、このまゝでは鮒ずしも昔話になる日も来ると淋しい話もある。前述の如く滋賀県への工場進出、それに伴う人口増加が琵琶湖をこれ以上汚染しないよう滋賀県およびこの中の企業は真剣にとりくんでいる。これから20年先或は50年先も、このめずらしい鮒ずしの味が近江に残ってくれることをひたすら願いたい。



機械科 実習実験風景

▷大阪支部だより< 陸 船 会

昭和25年造船卒

武石英男

十一年前、陸船会というややこしい名前の造船科一期生のクラス会が、戦後三十年ぶりに高知花壇に於いて発足した。小人数の学級ながら、森久敬と福永徳七郎の苦勞の結果三十人程のメンバーが集まった。以来、年一回の例会が持たれているが、願ふれに出船入船があるのも楽しい。酒を飲みながら好き勝手に語り合うだけの演歌もカラオケもなければゴルフの話題も出ない、そんな会合である。

このクラスは元来、一風変わったところがあった。終戦の翌日に集団疎開をさせられたり、戦後数年経った頃、須工が当時の産業の衰退を反映してS普通高校へ合併させられそうになったことがあるが、それに反対して、集めた署名を生徒大会の席上で教育委員に手渡す等、運動の先頭グループの一角でもあったりもした。それがいくらかでも功を奏したというわけでもないだろうが、母校は困難な時期に命脈を保ち続け、来年は創立五十周年を迎えようとしている。それにつれて、須工同窓会の大阪支部も先輩の山田豊氏を中心に大きく組織化されてきた。

ところで陸船会であるが、その出発してから平凡ではなかった。私達の担任であった竹村義典先生が数年前の定年迄一貫して須工におられたことも尋常ではないが、大阪支部の楠瀬富万がいつか報告していたように、造船科の初代担任であった桑原章師

先生が同窓会名簿に正確に逝去と長年にわたって印刷されていた物語者の箇所から抜け出して、東京から駆けつけてこられたばかりか、瞬間に渦巻いた興奮に脳血管がついてゆけず、乾杯直後に救急車で病院に運ばれた上に数日間の入院という出来事もあった。集まったのは、文房具屋、郷土史家、土木下請、魚屋、仕出し屋、教祖様……etc. 多彩であった。森によれば、陸船会とは海に浮かぶ船をつくらずに、陸の舟の上で子づくりに励んできた造船野郎の会ということになる。それ等は戦中戦後から現在に至る時代を検証する顔でもあった。全てに欠乏の戦後にあって、人間復興の予感を感じつつわれわれのシユトラムウントドラムク時代を生きてきた仲間達でもある。そんなことから、一種の私塾的な雰囲気を持ったクラスであった。

母校の生んだ詩人、大崎二郎氏に次の文章がある。「戦後、私が大津から帰ってきただけの風景であつた。私はそうすることによって落ち着きを取り戻し、とぎれていた巴との対話のつづきをはじめるのであつた。」（「はだら記」より）詩人の誠実に接近することは出来ないが、私も亦、郷里の須崎へ帰る度はこの海峡の風景を見据えて再び大阪へ出発するのが常であつた。長い間の異外暮らしのために旧友の消息をたずねることが容易ではなかった。故郷であるが故の寂寥があつた。会の発足以来、旧い知己と酒を酌み交わす機会を持てるようになった。抒情への妥協を排し、社会性のリアリティの中に高い詩情心を高揚してきたこの詩人に三十余年ぶりに再会し、

氏の詩集を手にすることが出来たのもクラス会での消息が元であつた。氏を中心に、森や福永等と会して飲む酒は私にとって帰郷の大きな楽しみとなっている。

ある日のこうした集まりの席上で、福永から私と同じ須崎の出身で幼・小と同級であつたA子の消息がもたらされ、急ぎ仲間に加わってもらつたことがある。「もう、とつくに更年期を過ぎましたに、夜分に外出しても誰も心配しませんぞね」という彼女の発言に哄笑が沸き上がり、まだ少女時代の美しさの残っている横顔を眺めながら茫々の歳月を思つた。人生の分水嶺を彼方に向かって大きく通りこして来たが、それでもまだこれから生きねばならない年月に、次々と新しい波が世の潮騒を伴つて押し寄せてくることであろう。その波浪を横切つて流れる小さな暖流がいつまでも続いているともらいたいと思う。陸船会がこれからも引きつがれ継続されていくために、一期生に限らず造船科卒の全ての世代の人達の広い参加を待っている。来年の母校の記念式前後を当て込んで森や福永によつて、いろいろの企画が練られていることと思う。二人に言つた、「オマン等のようなバカがおるきに会がつづいていきよ」すぐに答えが返つてきた、「その会に大阪からモンてくるバカもおる。」それでは、暑い最中、毎年東京からモンてくる桑原先生はどういうことになるであろうか。

陸船会連絡先 千780 高知市南宝永町16-36

宝文堂 福永徳七郎、森 久敬

TEL 0888-82-0717

▷高知支部だより◁

昭和32年機械卒業

中西安男

同窓会諸兄の皆さん、ますます御健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。高知支部は昭和四十七年発足以来、歴代の支部長さんを中心に役員の皆様方の、一方ならぬご尽力により、順調に発展してまいりました。事務局を高知市丸の内一丁目七の二六・高知市中小企業協会の内（横川寛水副支部長二十八機械卒）に置き、支部会員も竹内良一支部長（二十五機械卒）をはじめ一〇〇〇名近くになっています。支部の主な活動は、会則の主旨にのっとり、母校の隆盛と、会員相互の新知をはかるため、一杯飲みながら、母校の近況や、会員の消息、名簿の整理、会の運営等について、年に三・四回役員会を開き協議をしています。

現在のように、めまぐるしく変わる社会状況特に労働力不足の中では、同窓会の活動が特に重要になってくると思います。会議の都度母校からは、校長先生や、事務局の先生方の来会を頂き、会が盛会にできること、いつも乍ら有難度く思っています。

諸先生方いつもご苦労様でございます。今後も宜敷くお願い致します。

私は職域では、東洋電化工業㈱グループに所属しています。その職域の活動を簡単に紹介させて頂きます。東洋電化工業㈱は、カーバイド・シリコン、

マンガンの合金鉄の操炉メーカーとして、昭和三十一年高知市に発足していますが、時代の流れと共に斜陽化しつつあり、現在は多角経営に積極的に取り組んでいます。その範囲もポリエチレン製造、農産加工（漬物）、緑化事業、公害技術、コンピュータ販売、リフレッシュサービス、石材（建材）等、グループ会社、七社となり、その売上げは年間三〇〇億となっています。同窓生は汲田（高尾）信男（26年機械卒）先輩を筆頭に、男子二十名、女子一名計二十一名で一企業グループとしては、多い方だと思います。夏、冬と年二回懇親会を開催し、夏は新入社の方の歓迎会とし、冬は忘年会となっています。幹事は二名で、毎年順番制で替り、それぞれ特意の会場を設営し、その内容もまことに楽しく和氣諸々で、各人学校時代のこと（特に先生方の話題が多い）自分の職場紹介等、自己啓発にも努めています。紅一点の西川（芝）政子（39年化工卒）さんもいつもながら花をそえてくれます。こんな楽しい会も、早二十年経ちました。私達の年代は意に反して頭部の白いものが目立ち始めました。

須工軍団は、大変チームワークが良く、各人が、自分の置かれている立場を良く理解し、積極的に、事に取り組んでおり、社内でも高く評価されています。今後も須工の後輩がどんどん増えて行くことを全員が期待しています。

最後に、平成三年十一月に予定されています、母校創立五十周年の記念事業が、学校関係者、同窓生全員の総力によって、盛大に挙行できるよう、積極的に参加しようではありませんか。



造船科 実習風景

▷窪川支部だより◁

「コメの自由化

昭和21年機械二種卒業

藤戸 進

今、日本にとって最大の問題は「コメ自由化」であらう。それは人間の生命にかゝる文明以前の問題であるからだ。各国は競って食糧増産に血まなこになっていくのに日本だけは二十年前は穀物自給率が八〇%だったのに今は三〇%にまで落込んでいる。自由化反対の論拠は貿易摩擦解消不可能論、安定供給論穀物メジャー支配論国土環境保全機能論や人権性回復論等々あるが私の記憶には所謂「大豆ショック」がこびりついて離れない。

政府は米以外の穀物はどんどん輸入しようという方針でやって来た。そのわけは日本はアメリカに大量の自動車、電気製品、鉄鋼などを輸出して稼いでいる見返りに、アメリカから大量のコムギ、ダイズトウモロコシを買ってあげましようという仕組みにしているのだ。いってみれば日本が工業製品を沢山輸出しようとする程日本の穀物自給率は下がることになる。お互いにないものを融通しあうて仲良くすることはよいことだ。しかし、それも極端になればさまざまなひずみも生れる。日本が輸出に馬力をかけたあおりを食って、アメリカの自動車、鉄鋼産業は左前になり深刻な問題が起っているし、一方我が国の農業は津波のようなアメリカ穀物の輸入に

押しつぶされて、すっかり衰えてしまった。こうなるともうゼニカネだけの問題ではなくなる。助け合いうはすの貿易がお互いの産業のつぶし合いになるからだ。

それだけではない。相手国の経済の狂いがとんでもない困乱を引き起すことがある。一九七二年の世界的な異常気象で不作に落ちいったソ連は、アメリカから二〇〇〇万トンを超えるコムギ、トウモロコシを買入れた。アメリカの穀物の価格はみるみる上りとくに不作だったダイズは三倍にもなった。それにつれてアメリカ国内のインフレーションはひどくなり、市民の生活は急激に苦しくなった。あわてたニクソン大統領は国内の値上りをおさえようとして、ダイズの輸出を禁止する措置をとった。ところが日本ではアットという間に店頭から豆腐が姿を消してしまい、その他の食料品もものすごい値上りで、お祖母さん達が真青になる騒ぎになった。有名な「ダイズショック」である。国民は自分達の食生活がどのくらいアメリカに依存しているか思い知らされた。そもそも日本とアメリカは切っても切れない友交国であり兄弟国である。そんな間柄でもないぞと云う時はアメリカはどのような仕打ちを平気でするのである。自分達の食糧は自国で生産せねばと云う声が強くなったのはこの頃からである。それにアメリカは最近、気に入らない国への制裁に食糧輸出禁止をよくやるようになっていく。例えば一九七九年のホメイニ革命後のイランやアフガニスタンに侵入したソ連に対し、いわゆる兵糧攻めである。食糧が戦略物質、武器等といわれはじめた。

このような動きを見ると世界中から食糧を買い集めて食っている日本の現状はこのまゝでよいだろうか。

前日なくなられた、アメリカの元駐日大使のライシャロー氏は「ザ・ジャパニーズ」の中で「日本は経済大国と云っても、何の資源もない小さな島国である。だからちよつとした国際的紛争でもあつて海上を封鎖され、ば日本は一変に吹き飛んでしまふ」と云っているが、そんなことが起るわけがないと一笑に付することができるだろう。

現にイラク紛争では同盟諸国が海上封鎖したり経済制裁を強行している現実を対岸の火災視することは危険なことだ。



平成2年開校記念日 グランドにて
右から森岡学校長、山田大阪支部長、寺田須崎支部長

造船クラブの受賞について

造船クラブ顧問

山崎 吉広

近年ようやく造船業界にも明るい見通しが期待できるようになりました。

国の基幹産業である造船業の後継者を育成する本校造船科は、その使命を果すべく気力をみなぎらせ一丸となって頑張っております。

全国に十六校あった造船科設置校も現在僅か四校になろうとしています。幸いにして就職状況、出口の問題が大きく解決されたことが心の支えになっております。

さて、この度平成二年二月十五日社団法人全国工業高等学校長協会より、造船部が思いがけなく表賞を受けました。これもひとえに部員の生徒諸君をはじめ、卒業生の皆さんが伝統を守り、受け継ぎ、長年に亘って取り組んできたその実績が認められたことだろうと思います。

現在造船科の舟艇建造実習棟の移転、回流水槽の設置、の話が持ち上がっております。具体化されること夢見ております。実現しますと実習、実験は今までと比べて密度の濃いものとなり、一新した取り組みが期待できることでしょう。

今回の表彰に甘んずることなく、更に前進するよう頑張っていく積りで。今後共ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

表彰状

高知豊原崎工業高等学校

造船クラブ

あなたは工業技術の学習にあたり
よく努力し優れた実績を挙げ
られました

よつてその功をたたえ記念品を
贈りこれを表彰します

平成二年二月十五日

社団法人工業高等学校長協会

理事長 小川 幸男

高知県立須崎工業高等学校

校章



同窓会の理事会において事業計画の一環として創立五十周年が近づき、このさい校旗・標旗を新調することが決定されました。(平成元年度理事会)

当時の校章についての原寸図、写真もなく(焼失? : 昭和二十三年七月)この際校章の寸法割合を規定することとなりました。(下図：縮小)

校旗の寸法は780×1170mmで色は布地を朱で正絹塩瀬羽二重袷旗、真田織入り。章を金、高の文字を銀の刺繍盛り上げ縫い、ふちどりを金糸四段フレンジ飾房付き、春慶漆金穂子三本太棒金具付き

棒頭ニッケル三方剣240mm、五分丸ニッケル五脚ケースつき、大型二段トランクレザー張り赤ネール張り。

標準の寸法は177×2550mmで布地を江戸紫とし、校章および高知県立須崎工業高等学校の文字はソメスキの白地とし文字は隷書体とする。

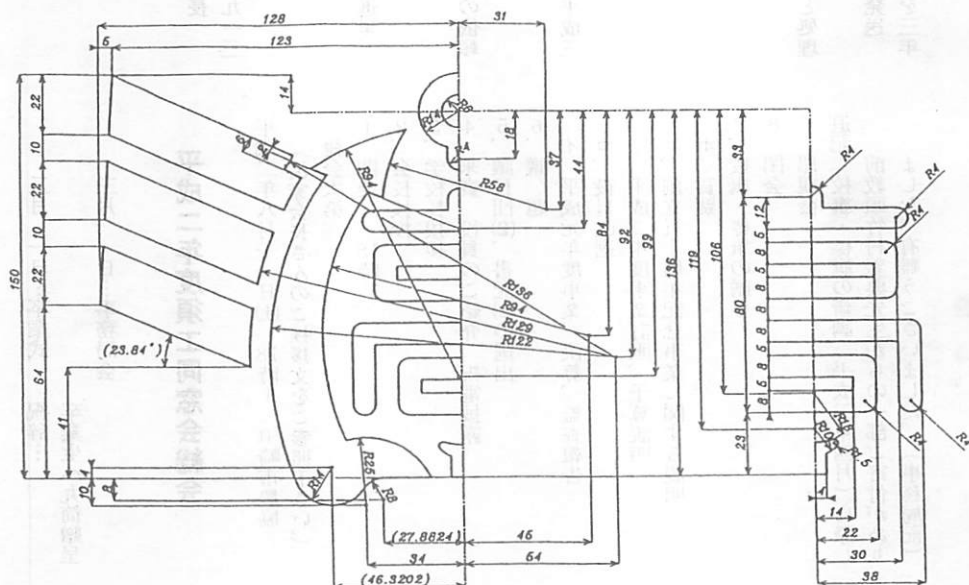
図案の意味するところは、錨は港すなわち須崎を表し、両翼は大鵬の羽ばたきを表す。

つまり高知県立須崎工業高等学校はおおとりの如く飛躍するという意味を表している。

「創立三十周年記念誌 田村隆徳先生の(創立後の数年間)より抜粋」
中央の工業の文字は「工」であったが学制改革以後(昭和二十三年)に「高」に変わった。

資料提出 CAD作図 同窓会事務局(平成二年一月十一日職員会議に提案、了承される)

校旗・標旗の贈呈
平成二年八月十一日
本部総会時



事務局だより

平成二年度事業計画

三月 一日…卒業式 祝辞…

卒業生へ丸簡贈呈

三月 日…事務局会

平成元年度事業報告

平成二年五月二十五日…開校記念式典

講演…山田 豊(21機械卒) 大阪支部長

平成二年度須工同窓会総会

平成元年五月二十七日…開校記念式典

講演…中西安男(32機械卒) 高知副支部長

平成二年八月十一日(土) 18時…須崎市農協

(滑家会長さんのご挨拶文を、参照下さい。)

総会次第

1、開会 18時

2、会長挨拶

3、学校長挨拶

4、来賓、役員のご紹介、祝電披露

5、議長団(2)、書記(1)の選出

6、議題

1、平成元年度事業、決算、監査報告

ロ、役員改選

ハ、平成二年度事業計画、予算説明

ニ、創立五十周年記念事業に関する説明

ホ、質疑

7、校旗・標旗の贈呈

8、閉会

懇親会

追記 校旗・標旗の新調(平成二年四月)に際し

前教頭竹村義典先生からの一部ご寄付がありました。

有難うございました。(事務局記)

生徒に記念品として水性ボールペンを進呈

五月二十六日…理事会

五月…七月…

事業所別調査(600社)と職域幹事さんの依頼

六月 二日…関東支部総会

六月 十日…PTA総会

三年生在学時の終身会費分割納入(平成三

年度より)を承認

六月二十八日…高知支部役員会

七月二十一日…須崎支部幹事会

七月二十七日…窪川支部総会

七月三十日…幡多支部連絡会

八月 十一日…本部総会

九月…十一月…会員名簿用住所等調査と処理

十月二十七日…大阪支部総会

十二月 上旬…会報「にきくら」第15号発送

一月 上旬…終身会費納入のお願い文を三年

生の保護者宛に郵送

二年 一月十一日…校章寸法割合決定

二月十五日…職員会議

三年生在学時の終身会費分割納入(平成三年

度より)を承認

三月 一日…卒業式

祝辞…滑家 寛(18機械2種) 同窓会会長

卒業生へ丸簡贈呈

三月十五日…事務局会

卒業生へ丸簡贈呈

三月十五日…事務局会

平成元年度決算報告書

収 入	費 目	金 額 (円)	備 考
前年度繰越金		45,802	
新入生入会金		482,000	241名*2,000円
雑 収 入		725	
特別会計利息		463,509	
特別会計補助		2,180,000	内配金碑費 1,000,000円
部 計		3,172,136	
支 出	費 目	金 額 (円)	備 考
前年度繰越金		15,120	
部 計		913,161	
特別会計品代		59,482	
会報印刷代		457,500	
会報送料		322,175	
封筒代		21,200	
調査費		25,040	
その他		27,764	
通 信 費		68,102	
郵 務 費		4,534	
慶 弔 費		185,406	
支部配分金		403,000	
雑 費		52,536	
預 り 金		5,000	
配 金 碑 費		1,030,641	
借入金返済		423,407	
部 計		3,100,907	
収 入	支 出	残 額	
3,172,136	3,100,907	71,229円	

<特別会計>

収 入	金 額	備 考
前年度未償立額	25,660,000	
本年度納入額	3,070,000	新卒(1,820,000)
一般会計補助	▲2,180,000	旧卒(1,250,000)
合 計	26,550,000	内配金碑1,000,000

監査報告

結構簿及び区費類等により監査の結果金額その他については相違なく、
預金通帳・定期預金証書とも確実に管理適正に執行されている。

平成2年4月21日

監 査 坂本 健三

山 地



平成2年度予算

(収入)

費 目	金 額	備 考
前年度繰越金	71,229	
新入生入会金	454,000	227名*2,000円
特別会計利息	1,000,000	
雑 収 入	100,000	
特別会計より補助	2,630,000	内校遊費用 1,000,000
部 計	4,255,229	

(支出)

会 議 費	55,000	開校記念品代 60,000 会報印刷代 500,000 6600部 会報送料 370,000 4600部 封筒代 38,000 7000枚 調査用紙 15,000 3700枚 名簿調査費 400,000 総会費用 700,000
通 信 費	70,000	
郵 務 費	15,000	
慶 弔 費	250,000	
支 部 配 分 金	207,500	関東199 中京122 大阪246 京畿 37 高知450 須崎889 徳川 61 博多 71
雑 費	60,000	
旅 費	300,000	
校 遊 模 範 費	1,100,000	
予 備 費	114,729	
合 計	4,255,229	

平成2年度特別会計予算

項 目	金 額	備 考
収 前年度未償立額	26,550,000	
2年度納入予定額	1,700,000	
入 計	28,250,000	
支 50周年記念基金	3,000,000	4ヶ年積立
一般会計へ補助	2,630,000	内校遊費用 1,000,000
出 計	5,630,000	
2年度未償立予定額	22,620,000	

同窓会について

同窓会は会員相互の親和、母校の隆盛を図るを目的としており、その目的を達成するために今回は次のような事業を行います。

- 1、同窓会会報「にしきうら」の発行
- 2、会員名簿の発行
- 3、本部総会
- 4、創立五十周年記念協賛金
- 5、母校の発展に関すること
- 6、会員の親和に関すること
- 7、その他目的達成に必要なこと

終身会費納入のお願い

同窓会の運営は、会員の皆様からの入会金、会費協賛金、寄付金、会社によるご援助金をもって賄っております。

平成三年度の卒業生より全員が納入できる体制が整いました。昭和五十三年以降の卒業生は、卒業の時点で殆んどの方が終身会費を納めてくれています。がそれ以前の方からの納入が少なくはなっています。

平成三年の母校創立五十周年記念事業には、多額の援助を行うことが理事会によって決定されております。末納の方は早い時期に**終身会費（二万円）**を納入して下さいようお願いいたします。

払込通知票の通信欄は多用途の使用になっております。終身会費納入済みの方にも用紙が届きますので**まちがいの**ないようにして下さい。確認をするには郵便物受取の「宛先書き」の右下に個人データに「納入済み」か「未納」と表示をしてあります。

会員名簿発行資金援助にご協力

事務局で会員名簿の作成準備を進めております。既にいくつかの事業所には「会員名簿発行資金援助のお願い」文をお届けしておりますが、会員の内からもご協力の申し出があり心強くもあり、感謝の気持ちで一杯です。

なお会員の皆様に広く「会員名簿発行資金援助」につきまして、ご協力をお願い申し上げます。広告掲載要項をご覧になって頂くかご連絡下さい。

申し込み方法は添付葉書の「名簿発行資金援助用紙一式を送れ」に○印をしてご連絡下さい。

会員名簿を購入して下さい

（予約注文の締切 平成三年五月末日）

会員名簿の発行を平成三年十一月に予定しております。前回は昭和五十二年に作成しましたが、今回の名簿作成には人数も増加し調査、印刷等に多額の出費を伴います。印刷部数が多ければ割安になります。

す。

会員名簿の金額は三、五〇〇円（送料を含む）で販売することになりました。

（但し名簿発行資金援助、即ち広告掲載援助の方にはお礼を兼ねまして会員名簿を無料で贈呈させて頂きます）

名簿作成に当たり出費を極力おさえるために「**予約注文**」を考えております。

予約注文の方法は「払込通知票」をご利用下さい。「**会員名簿（送料含む）**」欄に○印をお願いいたします。

予約注文の締切を平成三年五月三十一日とします。会員名簿を是非**購入して下さい**さるようご協力をお願い申し上げます。

会員名簿作成にあたりお願い

会員名簿の作成作業を進めておりますが、会員の皆様の氏名、旧姓、現住所、電話番号、勤務先、勤務先所在地、電話番号、ご逝去が判明しています限り記載（印刷開始平成三年六月）をする予定です。会員の皆様に於かれましてはご了承のほどお願い申し上げます。

事務局会員名簿作成担当者

ご存じありませんか？

(所在不明者を捜しています)
事務局では、会員の所在を確認できない方が多数います。平成三年十一月発刊予定であります会員名簿の作成に支障が生じています。

つきましては、皆様方にご協力をお願いし、一人でも多くの会員の方の所在をお知らせ頂ければ名簿記載内容の充実と共に、会報「にしきうら」を多数の会員に拝読していただく事ができます。19頁から24頁に掲載してあります「**所在不明者**」の消息をご存じの方は、誠にお手数をおかけしますが添付葉書の「**消息判明者用**」に○印をしてご連絡していただきたく重ねてご協力をお願い申し上げます。

住所等変更連絡の

記載なしのお詫び

住所や勤務先等の変更が多数ありますが今回の会報には掲載をしませんのでお詫びします。
前回の会報の表紙の校章に一部削除されたところがありましたのでお詫びします。

個人記録票をご覧下さい

会報の中に挟んであります個人データ票をご覧になって下さい。住所、勤務先、その他に変更や不備がありましたら添付葉書をご利用になって速めにご連絡下さい。

終身会費納入者名を

「会員名簿」に掲載する予定です

現在終身会費納入者が三九・五%です。確認の意味を含めて「**会員名簿**」の終ページに掲載をする予定です。ご了承をお願いいたします。

職域登録にご協力下さい

勤め先に須工卒業生が3人以上いますか？。後輩や先輩さらに支部や事務局との間でお世話のできる方を捜しています。即ち勤め先に3名以上の須工卒業生がいましたら正幹事1名、副幹事1名以上で、「**職域登録**」となります。ご協力とご連絡を下さい。

* 会員の方に毎年発送しております会報「にしきうら」を添付名簿者に配布して下さい。(事務局にとりましては送料が随分と節約できます)

* 勤務先等の変更時に事務局へご連絡して下さい。
(会員の皆様の所在を一人でも多く知り母校、支部、同窓会活動に役立てます)

* 支部との親睦の支えにもなって下さい。



平成2年8月11日、総会時(写真提供、野並允温氏)
校旗の贈呈 清家会長より森岡学校長へ

高知県立須崎工業高等学校同窓会会則

第一章 総 則

オ一条 本会は高知県立須崎工業高等学校同窓会と称する。

オ二条 本会は会員の親和、母校の隆盛を図るを目的とする。

オ三条 本会は本部を母校に置き、正会員多数の地域（職域）に支部を置くことがてきる。

オ二章 事 業

オ四条 本会はオ二条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 会報並に会員名簿の発行及び配布
- (2) 母校の発展に関すること
- (3) 会員の親和に関すること
- (4) その他目的達成のために必要なこと

オ三章 会 員

オ五条 本会の会員は次の者をもって組織する。

1、正会員

- (イ) 高知県立須崎工業学校を卒業した者
- (ロ) 高知県立須崎工業高等学校併設中学校を卒業した者

- (イ) 高知県立須崎工業高等学校を卒業した者
- (ロ) (イ)に在籍した者で会長が推薦し理事会にて認められた者

2、準会員

高知県立須崎工業高等学校在校生

3、特別会員

オ四章 役 員

オ六条 本会に次の役員を置く

会長一名・副会長二名（内一名は本部事務局長を兼ねる）・会計一名・常任理事若干名・理事若干名・監事二名

オ七条 役員の選出は次の通りとする。

- (1) 会長、副会長、会計、監事は理事会において選出する。
- (2) 理事は総会において選出された者および母校在職正会員とする。
- (3) 常任理事は理事会で選出する。

オ八条 役員の任務は次の通り定める。

- (1) 会長は本会を代表しその運営を統括する。
- (2) 副会長は会長を補佐し会長事故あるときは、その職務を代行する。
- (3) 事務局長は本部事務局を主宰し、本会の事業を執行する。

- (4) 会計は本会財政の運営に関し、予算収支の企画および収支の執行に当る。
- (5) 常任理事は本会の常務を執行する。
- (6) 理事は本会の重要事項を審議する。
- (7) 監事は本会の会計監査に当る。

オ九条 本会に名誉会長を置き母校校長を推戴する。

オ一〇条 会長が必要と認めたときは、理事会にはかり顧問および相談役を置くことがてきる。

オ一条 役員の任期は二ケ年とする。但し再任は妨げない。補欠のために就任した者の任期は前任者の残余期間とする。

オ五章 会 議

オ二条 本会の会議は総会、理事会および常任理事会とする。

オ三条 総会は二年毎に開催し、必要に応じ臨時に開催する。

オ四条 総会は会長がこれを召集し、出席者の過半数で決定し、可否同数のときは議長が決定する。

オ五条 理事会は次の場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき
 - (2) 理事の過半数の請求があつたとき
- オ六条 理事会は総会に次ぐ決議機関で次の事項を決定する。

- (1) 本会の規約の作成変更および役員選出
- (2) 収支予算ならびに決算
- (3) 事業の計画およびその他重要な事項

オ七条 常任理事会は会務の迅速円滑な執行をはかるため、総会および理事会の決定にもとづき、直接業務に必要な事項を審議し実行する。常任理事会の決定および実施事項は理事会に報告し、承認を得なければならぬ。

才六章 事務局

才一八条 本部に事務局を置き、事務局長が統括する。

才一九条 事務局の構成は次の通りとする。

- 1、事務局長
- 2、会 計
- 3、母校在職正会員

才二〇条 事務局は総会、理事会、常任理事会の決定に基づき必要な会務を執行する。

才七章 会 計

才二条 本会の財政は会費、入会金、寄附金その他の収入によつてまかなう。

正会員は会費（終身会費）を納入しなければならぬ。

会費（終身会費）は一万円とする。

入会金は入学時二千円を納入するものとする。

才三条 本会の会計年度は四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終る。

才三条 本会は会計年度末に支部に対する配分金額を理事会にて決定し、翌年度六月末までに還元する。

附 則

昭和二五年一月二〇日施行の本会則は、昭和四三年三月一日改正、昭和五一年八月一日改正、昭和五六年八月九日改正する。
昭和六二年六月二〇日改正。

各種証明書の発行について

（母校事務室からの伝言）

証明書が必要ときは、法令の定めにより証明書交付申請書別紙（用紙は事務室に備付）を校長宛提出しなければなりません。（第二号十八頁の様式）

申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、切手、又は現金を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなく記入下さい。

手数料は次のとおりです。

卒業証明書	一通につき三〇〇円
成績証明書	一通につき三〇〇円
単位修得証明書	一通につき三〇〇円

送り先〒785須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三

高知県立須崎工業高等学校事務室

電話（〇八八九）⑬ 一八六一

⑭ 一八六二

証明書の件につき不都合または不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

編集後記

第十五号の会報を、お送りいたします。

各支部の役員、並びに会員の皆様には、原稿をお願いしたところ、心よく原稿を送って載き本当にありがとうございました。

紙面の都合上、終身会費納入者名を本年度のみとさせていただきます。申し訳ございませんが、ご了承下さいませ。

今後につきましては、良い記事がありましたら事務局まで、ぜひ直接お送り下さい。次の会報に載せたいと思います。

尚印刷につきましては、須崎市内の笹岡印刷所さんにお願ひし、大変お世話になりました。心から御礼申し上げます。

会員の皆様の御活躍をお祈り申し上げます。

事務局編集委員

古谷恭啓

長山孝弘

平成二年十二月一日発行

発行所 高知県立須崎工業高等学校

同窓会事務局

印刷所

高知県須崎市東古市町二番十六号
有限会社 笹岡印刷所